

第29回 うつのみやこども賞だより

平成24年度 第9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『劇団6年2組』

吉野万理子／著 宮尾和孝／絵(学研教育出版)

～読んだ本の感想より～



- たつきが女の役をやることになったのを見て、すごいゆうきあるなあって思った。
- 卒業式の少し前に、お別れ会でげきをやることになってからがおもしろかったし、クラスの人たちのキズナに感動できた。
- みんなが一つのことをやりとげようとした時、絆が、そして友情が深まっていくんだな・・・と思いました。
- とてもおもしろかった。劇をつくる努力や大変さが、この本を読んでいて感じた。
- シンデレラのげきをとおして「あいての気持ちを考える」ということを学べる、すごくいい本でした。

● 多少のハプニングはあったものの、劇が成功して良かったです。立樹と慶司の中がだんだん良くなっていく所もおもしろかったです。

● みんなで力を合わせて創った劇は感動的でした、それぞれの個性が目立っていい物語だと思いました。

『黒ねこガジロウの優雅な日々』

丘修三／作 国井節／絵 (文溪堂)

- 町の様子がネコの目線からかいてあっておもしろかったです。白いネコはなに者なのか？という不しぎもあって、ちょっとかなしいところもあってよかったです。
- ガジロウが町内を散歩する場面がおもしろかった。
- ガジロウはノー天気で、かわいらしいと思いました。
- ネコ目線で、こうゆう本もありだなと思いました。

『僕たちのブルーラリー』

衛藤圭／作 片桐満夕／作 (朝日学生新聞社)

- リツキの「青」を集める旅「ブルーラリー」をやっている内にリツキとはるとがおたがいを理解していき、良いブルーラリーになったので良かったです。
- 「青」の见えないリツキが「青」の曲を創るためにブルーラリーに参加したのはすごいことだと思った。
- ブルーラリーで三人の仲が深まっていったから、すごくよかった。

『ぼくたちの骨』 榎崎茜／作 (講談社)

- 「どうして死んだ動物はさわってはいけないのか」というぎもんに私もきょうかんがもてました。
- 千里は春人と、はくせいを直すために、いろいろな場所にいってすごいなと思いました。
- 剥製の作り方が知れたので勉強になりました。戦争中も作っていたのがびっくりしました。